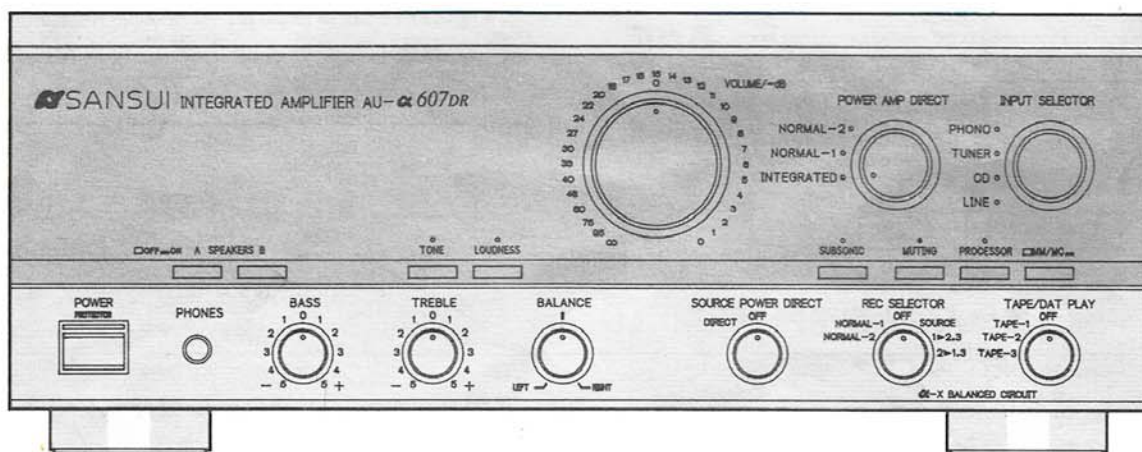


# 取扱説明書

**SANSUI**

ご使用前に必ずお読みください。



ステレオプリメインアンプ

# AU-α 607DR

このたびは、サンスイ製品をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり本機の性能を十分に発揮させてご愛用くださいますようお願いいたします。

※説明の便宜上、イラストは原型と異なることがあります。

目次	
安全にご使用いただくために	3
接続	4
各部の名称と説明	8
操作	11
トラブルと修理依頼	15
仕様	裏表紙

## アフターサービスについて

**保証書**——この製品には保証書が添付されています。

「お買い上げ店の捺印、購入年月日」などの記入及び記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

所定事項が記入されていない場合や紛失した場合は保証期間中でも保証が無効となります。

**保証期間**——この製品はお買い上げの日より1年間です。

正常な使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合は保証書に記載されている当社修理規定に基づき、修理いたします。

**保証期間経過後の修理**——当社消費者相談窓口またはお買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

この製品の補修用性能部品<sup>\*1</sup>の最低保有期間は、製造打ち切り後8年<sup>\*2</sup>です。

<sup>\*1</sup> 補修用性能部品とは、この製品の機能を維持するために必要な部品です。

<sup>\*2</sup> この期間は、通商産業省の指導によるものです。

この取扱説明書は保証書、サービスネットワークと一緒に大切に保存してください。万一ご使用中にわからないことや不具合が生じたときにお役に立ちます。

## 特長

### ピュアな伝送・増幅を実現する アドバンスドα-Xバランスサーキット

⊕側と⊖側の信号をアースから独立させ、それぞれの信号を別々に伝送することにより、外部からの影響を受けないピュアな信号としてドライブされます。またアドバンスドα-Xバランスサーキットはスピーカーの⊕側、⊖側を別々のアンプによりドライブするため、スピーカーを正確に制御し、音楽の本当の姿を耳にすることができます。

### パワフルで安定したエネルギーを供給し、ノイズの影響をカットする NEW α-X バランス電源

CDの広大なダイナミックレンジと力感ある重低音の増幅を実現する超大型電源トランスとコンデンサーを搭載したNEW α-X バランス電源により、微弱な信号から広大な信号までハイスピードで追従します。

### 信号の伝送回路をシンプルにすることのできる ソースパワーダイレクトスイッチ

インプットセレクターで選択したすべてのソースをアドバンスドα-X バランスサーキットに直結できます。

### 専用ボリュームコントロール機能付の2系統 パワーアンプ・ダイレクト入力端子

ノーマル(NORMAL-1, -2)

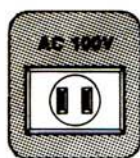
CDプレーヤーやビデオディスクプレーヤーの音声出力などを本機のパワーアンプに接続することにより、それぞれのクオリティーをいかしたサウンドをお楽しみいただけます。また、パワーアンプ・ダイレクト機能を使用するときは、ボリュームコントロールの外周に表示された目盛により、専用のボリュームコントロールを操作することができます。

### AVセレクターやグラフィックイコライザーを接続できる プロセッサ端子

プロセッサスイッチを押すだけで、プロセッサ端子に接続したAVセレクターやグラフィックイコライザーを使用することができます。



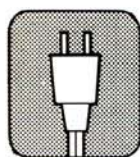
# 安全にご使用いただくために〔このページは必ずお読みください〕



**本機は交流(AC)100V専用です**  
電源プラグをコンセントに接続するときは、次の点にご注意ください。

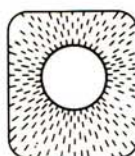
誤った接続をすると故障や火災の原因になる恐れがあり、大変危険です。

- この製品は日本国内用につくられていますので、海外ではご使用になれません。
- クーラーなどの200V電源には接続しないでください。
- 船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。



## 電源プラグを抜き差しするときの注意

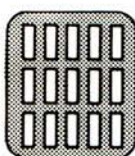
- 電源プラグをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。コードを持って抜くと断線やショートの原因となり、大変危険です。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差しすると、感電することがありますので絶対におやめください。
- 電源コードを傷つけたり電源コードの上に重いものを乗せたりすると感電や火災の原因となり、大変危険です。



## 次のような場所には設置しないでください

性能の劣化や故障の原因となります。

- 暖房器具などの発熱物の近く。
- 窓際など直射日光や雨の当たる場所。
- 風通しが悪く、湿気やほこりの多い場所。
- 振動や傾斜のある不安定な場所。



## 通風孔をふさがないでください

本機をご使用になると、内部でかなりの熱を発生するため、上下の通風孔により空気の対流を効果的に利用し、放熱が行われるように設計されています。

通風が悪く、放熱が十分でないと内部温度が異常に上昇し、故障や火災の原因になりますので密閉したラックなどに入れないでください。



## 音のエチケット ……………

音量は時や場所に応じて適度な大きさに調整してください。特に、静かな夜間は小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には音量に気を配りましょう。



## ケースや底板は絶対にはずさないでください

内部の点検や調整は、故障や感電事故の原因になります。内部に触れることは絶対にしないでください。

また、内部を改造した場合の故障や性能の劣化については保証いたしません。



## 長期間ご使用にならないときは

長期間ご使用にならないときは、安全のため本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。接続したままにしておくと、思わぬ事故につながる恐れがあります。

次のような場合は、すぐ電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げになった販売店または最寄りの当社サービス窓口（別添サービスネットワーク参照）にご連絡ください。



## 内部に異物が入ったとき

内部にヘアピンや硬貨などの異物を入れた場合、そのまま使用すると故障を起こしたり火災や感電の原因になる恐れがあり、大変危険です。

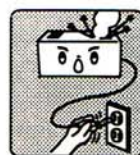
特にお子様にはご注意ください



## 内部に水が入ったとき

内部に水が入ると故障を起こしたり火災や感電の原因になる恐れがあり、大変危険です。内部に水が入った場合は本体に触れないよう注意しながら、すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

本機の上に水の入った花瓶やコップを置かないでください



## 本機の動作に異常を感じたとき

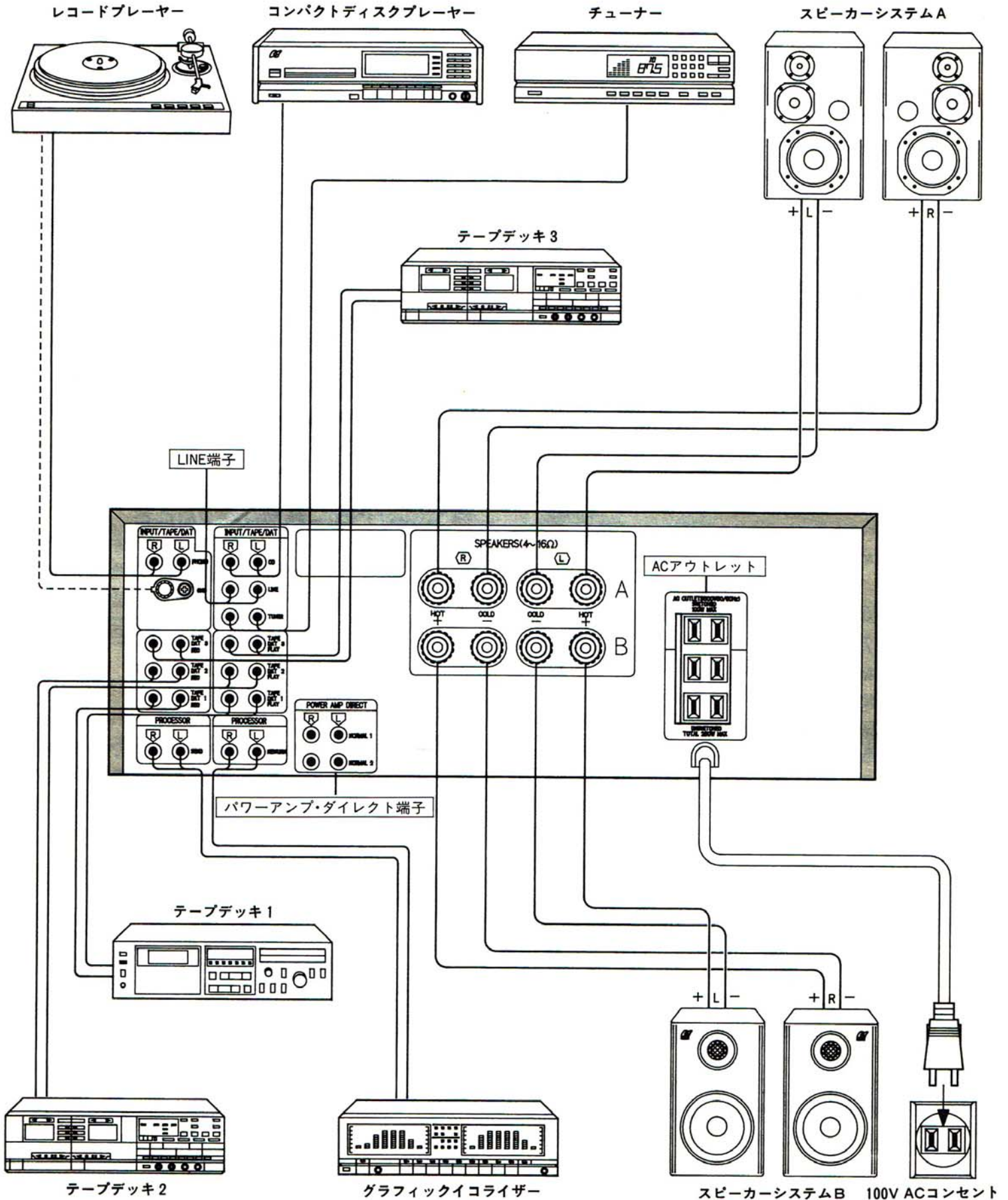
本機から異常な音や臭い、煙などが出た場合、そのまま使用すると故障の範囲が広がったり火災や感電の原因になる恐れがあり、大変危険です。

すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。

あなたが放送やレコード、テープ、またはビデオディスクや市販のソフトテープから録音や録画をしたものは個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。



# 接続

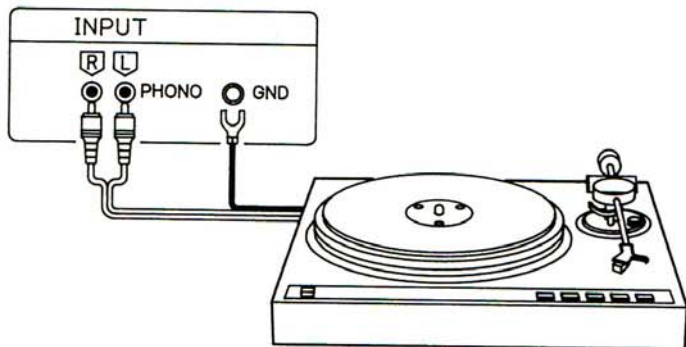


## 接続上の注意

- \* 接続の際は、電源プラグをコンセントから抜くか、パワースイッチを押して電源を切ってから行ってください。
- \* 接続する前に、このアンプに接続するオーディオ製品の取扱説明書をよくお読みください。
- \* 左右のチャンネルを確かめて、正しく(LとL、RとR)接続してください。
- \* プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続は雑音発生の原因になります。
- \* 本機は $\alpha$ -Xバランス構成になっているため、スピーカー端子のCOLD(-)端子同士を共通にしたり、他の装置のアース(GND)端子とCOLD(-)端子を接続することはおやめください。

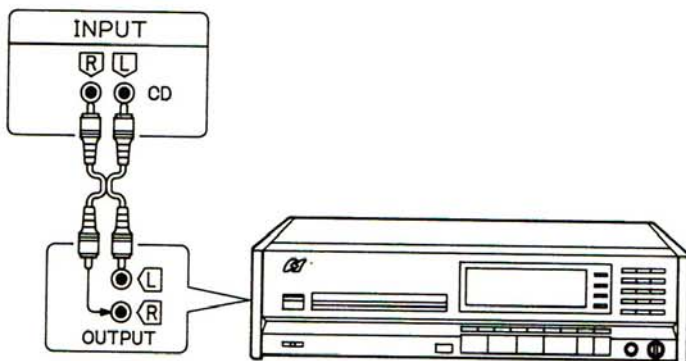
## レコードプレーヤーの接続

レコードプレーヤーの出力コードをフォノ(PHONO)端子に接続します。出力コードのLプラグをL端子に、RプラグをR端子に接続し、アース線をアース(GND)端子に接続してください。



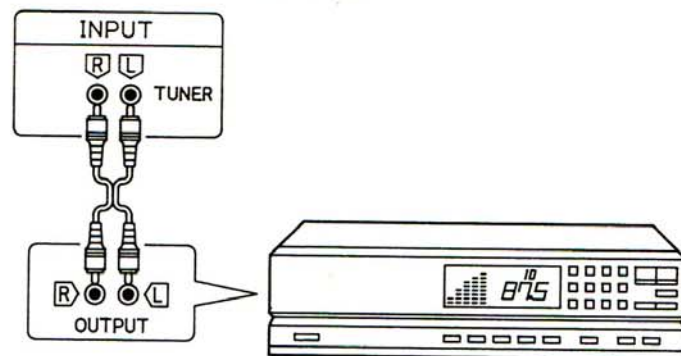
## コンパクトディスクプレーヤーの接続

コンパクトディスクプレーヤーの出力(OUTPUT)端子とシーディー(CD)端子をピンプラグコードで接続します。



## チューナーの接続

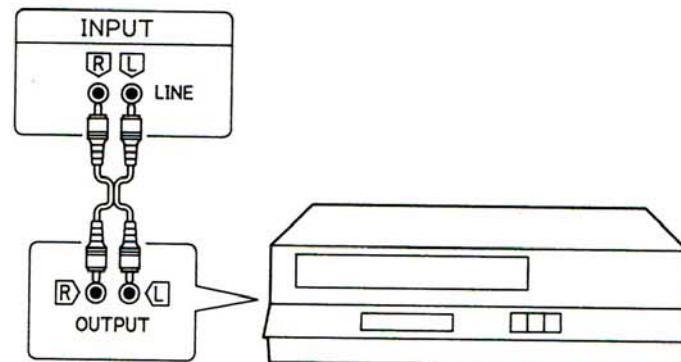
チューナーの出力(OUTPUT)端子とチューナー(TUNER)端子をピンプラグコードで接続します。



## LINE端子の接続

LINE端子はCD端子やTUNER端子と同等の電気的性能をもっていますので、ビデオディスクプレーヤーやTVチューナーなどの音声再生用端子としてご利用ください。

ご使用になる装置の出力(OUTPUT)端子と本機のライン(LINE)端子をピンプラグコードで接続します。



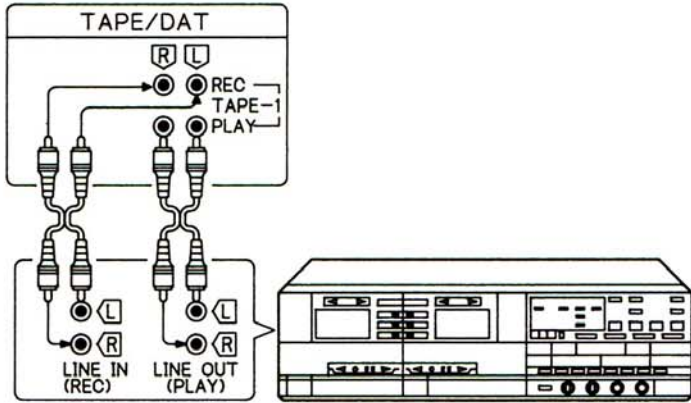


## テープデッキの接続

テープデッキを接続するテープ(TAPE/DAT)端子は3系統あり3台のテープデッキを接続して同時録音やテープコピー(1▶2・3, 2▶1・3)が行えます。

**録音用の接続:** テープデッキの入力(LINE IN/REC)端子と本機のTAPE/DAT REC端子をピンプラグコードで接続します。

**再生用の接続:** テープデッキの出力(LINE OUT/PLAY)端子と本機のTAPE/DAT PLAY端子をピンプラグコードで接続します。

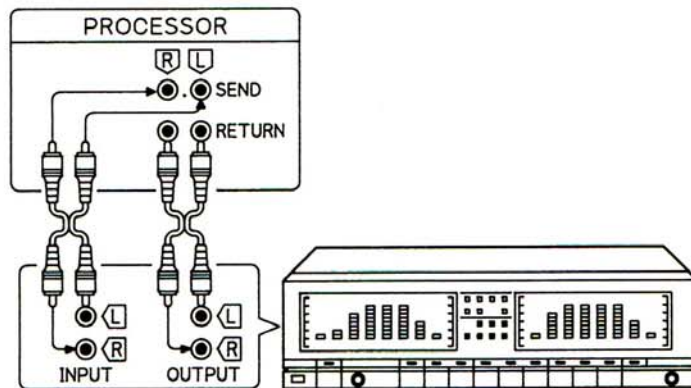


\* 本機にDAT (デジタルオーディオテープレコーダー)やハイファイビデオデッキの音声(AUDIO)入, 出力端子を接続する場合も上記の方法で接続します。

## プロセッサー(PROCESSOR)端子について

グラフィックイコライザーや、サラウンドプロセッサーを接続する端子です。AVセクターをご使用になる場合も、この端子に接続すると便利です。

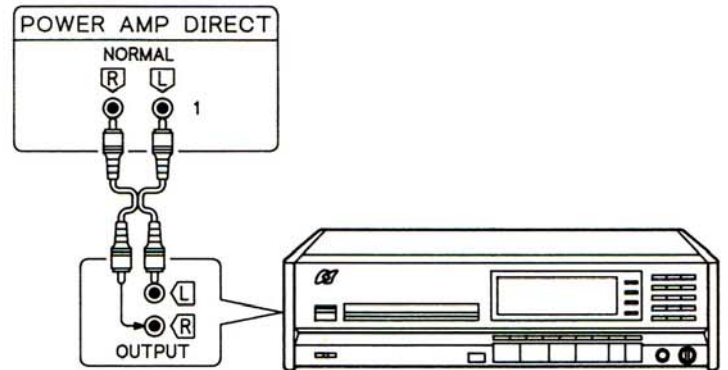
使用する装置の入力(INPUT)端子と本機のセンド(SEND)端子を、出力(OUTPUT)端子と本機のリターン(RETURN)端子をピンプラグコードで接続します。



## パワーアンプダイレクト(POWER AMP DIRECT)端子について

プリアンプ部を切り離し、コンパクトディスクプレーヤーなどを本機のパワーアンプにダイレクトに接続する場合は、このパワーアンプダイレクト (POWER AMP DIRECT/NORMAL-1, NORMAL-2) 端子に接続します。

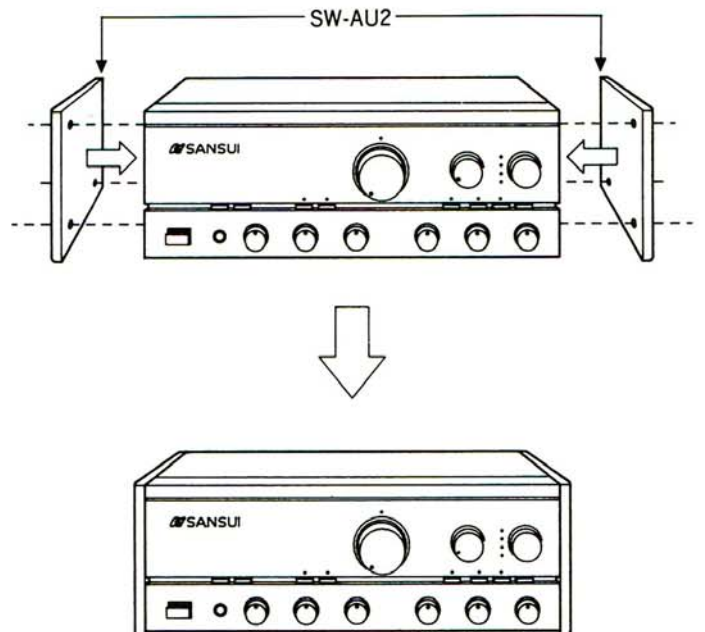
コンパクトディスクプレーヤーやチューナーなど、ご使用になる装置の出力(OUTPUT)端子と本機のノーマル1(NORMAL-1)またはノーマル2(NORMAL-2)端子をピンプラグコードで接続します。



## 本機専用としてサイドウッドセット(SW-AU2)が別売で用意されています。

\* 取付けに際してはサイドウッドセットに付属のビス類をご使用ください。

\* 詳しくはサイドウッドセット取付説明書をご覧ください。



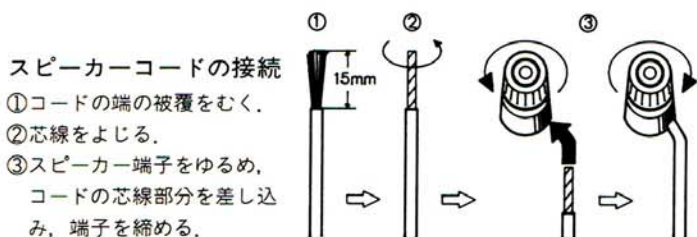
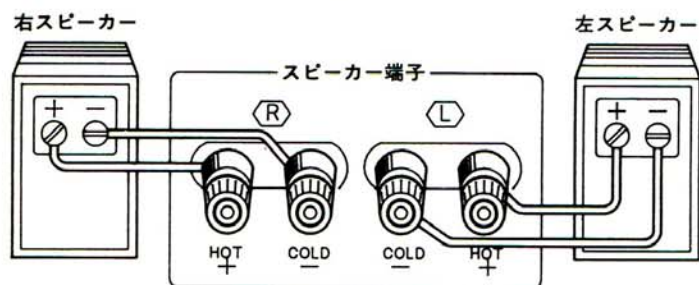
## スピーカーシステムの接続

スピーカーシステムを接続するスピーカー (SPEAKERS) 端子は2組あります。スピーカーシステムを1組だけ接続する場合はSYSTEM-A端子をご利用ください。

正面から見て左側に置くスピーカーシステムをL端子に、右側に置くスピーカーシステムをR端子に接続してください。

また、スピーカー端子とスピーカーシステムは、必ず同じ極性 (+と+, -と-) を接続してください。左右いずれかの極性を間違えて接続すると、中央の音が抜けたようになり楽器の位置がはっきりせず、ステレオの方向感をそこないますのでご注意ください。

\* 接続の際、スピーカーコードの芯線が端子からはみだしたりして他の端子に接触しないように注意してください。



### スピーカーコードの接続

- ①コードの端の被覆をむく。
- ②芯線をよじる。
- ③スピーカー端子をゆるめ、コードの芯線部分を差し込み、端子を締める。

スピーカー端子は、 $\alpha$ -X バランスサーキットの一部となっており、誤った接続をすると故障の原因となります。

特に次のような接続は絶対にしないでください。

- COLD (-) 端子とアース端子を共通。
- COLD (-) 端子と別の COLD (-) 端子を共通。

また COLD (-) 端子が他のスピーカーコードの芯線や端子に接触しないように注意してください。

## スピーカーのインピーダンスについて

接続できるスピーカーのインピーダンスは、A、B、別々に使用する場合は4  $\Omega$  以上、2組(A+B)同時に使用する場合は8  $\Omega$  以上です。

## ACコンセントについて

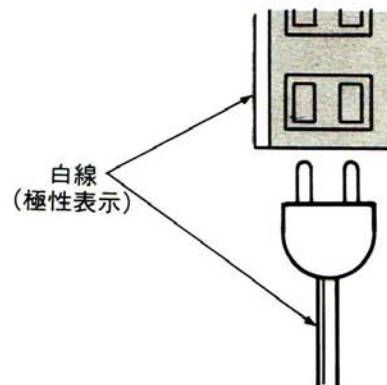
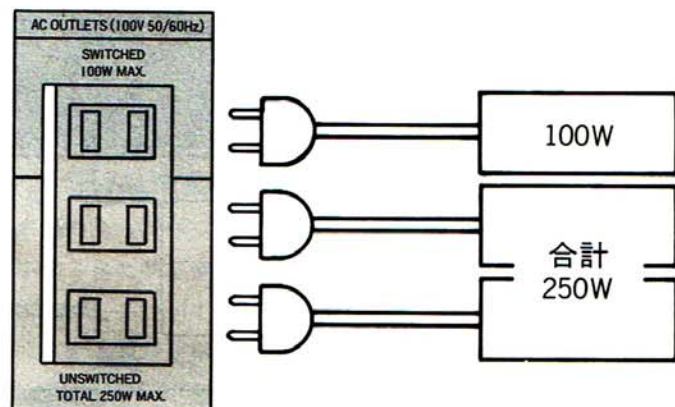
チューナーやレコードプレーヤーなど、このアンプに接続した装置の電源プラグを差し込んでおくとう便利です。

**SWITCHED (容量100W)**：パワースイッチに連動して電源の供給がON-OFFされます。

**UNSWITCHED (合計容量250W)**：パワースイッチに関係なく、常に電源が供給されています。

\* 接続する装置の消費電力の合計が、指定電力容量を越えると危険です。接続する前に消費電力を確認してください。

\* 極性表示 (白線やWマーク) のある電源コードのプラグを差し込む場合は、プラグのアース側をACコンセントの白線マークに合わせて差し込んでください。



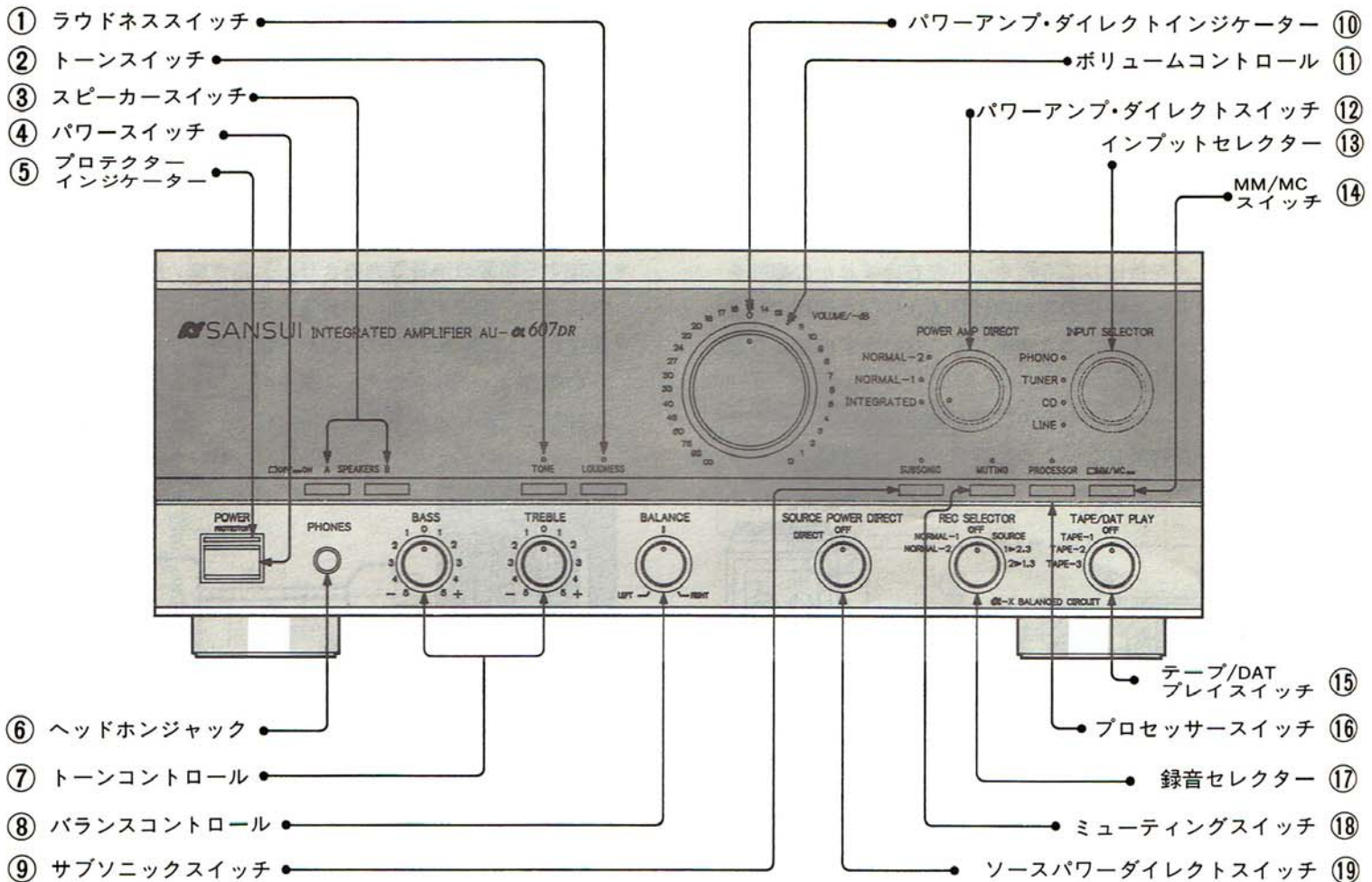
## 電源コードの極性表示について

本機の電源コードには極性表示があり、接続するACコンセントの極性と合わせることで音質が良くなる場合があります。家庭用ACコンセントに極性表示がある場合 (一般的にアース側の差し込み口が長くなっている) 電源コードの白線が印刷されている方をアース側に合わせて差し込んでください。

\* 背面にあるACアウトレットの極性表示は電源コードの極性に合わせてありますので、接続する装置との極性を統一することができます。



# 各部の名称と説明



## ① ラウドネススイッチ (LOUDNESS)

人間の聴覚は、音量が小さくなるに従って低音と高音に対する感度が下がる性質があり、小音量時には低音と高音が不足したやせた音に聞こえます。小音量時にこのスイッチを押すとインジケーターが点灯し、低音と高音が適度に増強されて聴感上のバランスを保ちます。

もう1度押すとインジケーターが消え、LOUDNESS回路が切り離されて周波数特性がフラットになります。

## ② トーンスイッチ (TONE)

トーンコントロールを操作して音質調整をするときにこのスイッチを押すとインジケーターが点灯して音質調整ができる状態になります。

もう1度押すとインジケーターが消え、トーン回路が切り離されて周波数特性がフラットになります。

## ③ スピーカースイッチ (SPEAKERS)

使用するスピーカーを選択するためのスイッチです。

A……SYSTEM-A端子に接続したスピーカーで演奏を聞くとときにこのスイッチを押して“ON(■)”にします。

B……SYSTEM-B端子に接続したスピーカーで演奏を聞くとときにこのスイッチを押して“ON(■)”にします。

\* 2組のスピーカーを同時に使用する場合は、使用するスピーカーのインピーダンスが8Ω以上のものを使用してください。やむをえず8Ω以下のスピーカーを同時に使用する場合は音量を上げすぎると故障の原因になりますので、あまり音量を上げないでお聞きください。



#### ④ パワースイッチ (POWER)

このスイッチを押すと電源が入り、もう1度押すと電源が切れます。

#### ⑤ プロテクターインジケーター (PROTECTOR)

電源が入るとこのインジケーターが点滅し、数秒後、点滅から常時点灯に変わり、アンプが動作状態になります。

また、使用中にプロテクター(保護)回路が働くと点滅に変わりアンプの異常を知らせます。このときはただちに電源を切り、原因(スピーカーコードの短絡など)を取り除いてください。

\*インジケーターが点滅している間はスピーカーから音が出ません。

#### ⑥ ヘッドホンジャック (PHONES)

ヘッドホン用出力端子です。ステレオヘッドホンで演奏を聞くときに、ヘッドホンのプラグをこのジャックに差し込みます。ヘッドホンを使用する際は、耳をあまり刺激しないよう適度な音量に調整して演奏をお楽しみください。

\*ヘッドホンを使用しないときは、プラグを抜いておいてください。

#### ⑦ トーンコントロール (BASS/TREBLE)

TONEインジケーターが点灯しているときに、このコントロールツマミを操作すると音質調整ができます。

トレブル(TREBLE)ツマミは“0”の位置より右にまわすと高音が強まり、左にまわすと高音が弱まります。

バス(BASS)ツマミは“0”の位置より右にまわすと低音が強まり左にまわすと低音が弱まります。

\*TONEインジケーターが消灯しているときは、周波数特性がフラットになりトーンコントロールは働きません。

#### ⑧ バランスコントロール (BALANCE)

左右の音量バランスを調整するツマミで、右側の音量が小さいときは中央より右にまわし、左側の音量が小さいときは左にまわします。通常は、中央の位置にしておいてください。

#### ⑨ サブソニックスイッチ (SUBSONIC)

このスイッチを押すとインジケーターが点灯し、可聴帯域外の低い周波数(16Hz)を6dB/octで減衰するサブソニックフィルターが働きます。ソリなどのあるレコードを演奏すると発生する超低音の雑音は、混変調ひずみの原因になり、音質に悪影響を与えますが、このフィルターで除去できます。

もう1度押すとインジケーターが消え、フィルターが解除されます。

#### ⑩ パワーアンプ・ダイレクトインジケーター

パワーアンプ・ダイレクトスイッチを“NORMAL-1”または“NORMAL-2”にセットするとこのインジケーターが点灯します。

#### ⑪ ボリュームコントロール (VOLUME)

スピーカーやヘッドホンの音量を調整するツマミで、右にまわすと音量が大きくなり、左にまわすと音量が小さくなります。また、音量表示が2つ(パネル面とツマミの周囲)あり、パワーアンプ・ダイレクトスイッチの設定により、表示の読み方が次のように異なります。

INTEGRATEDのとき：ツマミのマーク(◎)とパネル面に表示された数字を合わせて読んでください。

NORMAL-1またはNORMAL-2のとき：パワーアンプ・ダイレクトインジケーター(◎)とツマミの周囲に表示された数字を合わせて読んでください。

#### ⑫ パワーアンプ・ダイレクトスイッチ (POWER AMP DIRECT)

本機のプリアンプ部を切り離して、パワーアンプ部と他の装置を組み合わせ使用する場合に切り換えるスイッチです。

NORMAL-2……POWER AMP DIRECT (NORMAL-2)端子に接続した装置を使用するとき。

NORMAL-1……POWER AMP DIRECT (NORMAL-1)端子に接続した装置を使用するとき。

INTEGRATED……インテグレートッド(プリメイン)アンプとして使用するとき。

\*操作を間違えると音が出ませんので、ご注意ください。

\*通常は“INTEGRATED”の位置にセットしておいてください。

#### ⑬ インプットセレクター

お聞きになるプログラムソースを選択するためのスイッチです。PHONO……PHONO端子に接続したレコードプレーヤーを使用してレコードを聞くときに、この位置にセットします。

TUNER……TUNER端子に接続したチューナーを使用して放送を聞くときに、この位置にセットします。

CD……CD端子に接続したコンパクトディスクプレーヤーを使用してコンパクトディスクを聞くときに、この位置にセットします。

LINE……LINE端子に接続した装置を使用するときに、この位置にセットします。

### ⑭ MM/MCスイッチ

レコードプレーヤーで使用するカートリッジの出力電圧に応じて“MM(□)”または“MC(■)”にセットします。

MM(ムービングマグネット)型などの高出力カートリッジを使用する場合は、このスイッチを“MM(□)”にセットし、MC(ムービングコイル)型などの低出力カートリッジを使用する場合には、このスイッチを押して“MC(■)”にセットしてください。

### ⑮ テープ/DATプレイスイッチ

TAPE/DATの再生(PLAY)端子に接続したテープデッキ、DATまたはビデオデッキの音声を再生するときに操作するツマミです。

OFF………インプットセクターで選択した装置の再生をするとき、この位置にセットします。またテープを再生しないときはこの位置にセットしておいてください。

TAPE-1…TAPE-1端子に接続した装置を使用するときに、この位置にセットします。

TAPE-2…TAPE-2端子に接続した装置を使用するときに、この位置にセットします。

TAPE-3…TAPE-3端子に接続した装置を使用するときに、この位置にセットします。

### ⑯ プロセッサスイッチ(PROCESSOR)

PROCESSOR端子に接続したグラフィックイコライザーやサラウンドプロセッサを使用するときにこのスイッチを押します。スイッチの上にあるインジケータが点灯して使用できる状態になったことを示します。

\*PROCESSOR端子に接続した装置を使用しないときや何も接続されていないときは、インジケータが消灯の状態にしておかないと、音が出なくなりますのでご注意ください。

### ⑰ 録音セクター(REC SELECTOR)

TAPE/DAT端子に接続した装置でテープ録音をするときに、録音するプログラムソースに応じてセットします。

NORMAL-2………POWER AMP DIRECT NORMAL-2端子に接続した装置のプログラムソースを録音するとき。

NORMAL-1………POWER AMP DIRECT NORMAL-1端子に接続した装置のプログラムソースを録音するとき。

OFF………録音を行わないとき、この位置にセットすると録音回路が切り離され、テープデッキからの電気的影響を受けません。

SOURCE………インプットセクタースイッチで選択したプログラムソースを録音するとき。

1▶2・3………TAPE/DAT-1端子に接続した装置からTAPE/DAT-2,3端子に接続したテープデッキなどの装置に録音するとき。

2▶1・3………TAPE/DAT-2端子に接続した装置からTAPE/DAT-1,3端子に接続したテープデッキなどの装置に録音するとき。

\*“SOURCE”以外にセットしたときは、録音中のプログラムソースとは別のプログラムソースをインプットセクタースイッチで選択して聞くことができます。

### ⑱ ミューティングスイッチ(MUTING)

音量を20dB下げるスイッチです。一時的に音量を小さくするときはこのスイッチを押すと、インジケータが点灯して音量が小さくなります。

もう1度押すと、インジケータが消えて音量がもとの大きさに戻りますが、急に大きくなりますのでご注意ください。

### ⑲ ソースパワーダイレクトスイッチ (SOURCE POWER DIRECT)

コントロールアンプ内における信号の通過経路をシンプルにしよりクリアーなサウンドにするためのスイッチです。

スイッチがDIRECTにセットされているときはシンプルな伝送回路になり、OFFにセットされているときは回路構成がもとにもどります。

\*DIRECTにセットされている間は、トーンコントロール、バランスコントロール、トーンスイッチ、ラウドネススイッチ、サブソニックスイッチ、ミューティングスイッチを操作しても働きません。



# 操作

## 演奏を始める前に

演奏を始める前に、各ツマミの位置を確認してください。

- \* ボリュームコントロールは左にまわしきって音量最小“∞”の位置にします。
- \* バランスコントロールは中央の位置にします。
- \* トーン(バス、トレブル)コントロールは“0”の位置(中央)にします。
- \* 録音セクターは“OFF”の位置にします。
- \* パワーアンプ・ダイレクトスイッチは“INTEGRATED”の位置にします。
- \* スピーカースイッチは使用するスピーカーを接続した端子に合わせてAまたはBをON(■)にセットします。

確認後、パワースイッチを押して電源を入れます。

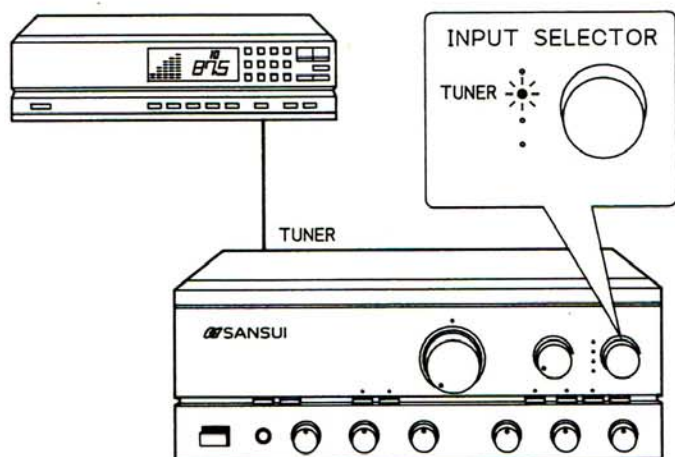
PROTECTOR インジケータが点滅して数秒後、常時点灯に変わりアンプが動作状態になります。

演奏を始める前に、各スイッチの位置を確認してください。

- \* プロセッサ、ラウドネス、ミュートイング、サブソニック、トーンの各スイッチはインジケータが消えた状態にセットします。

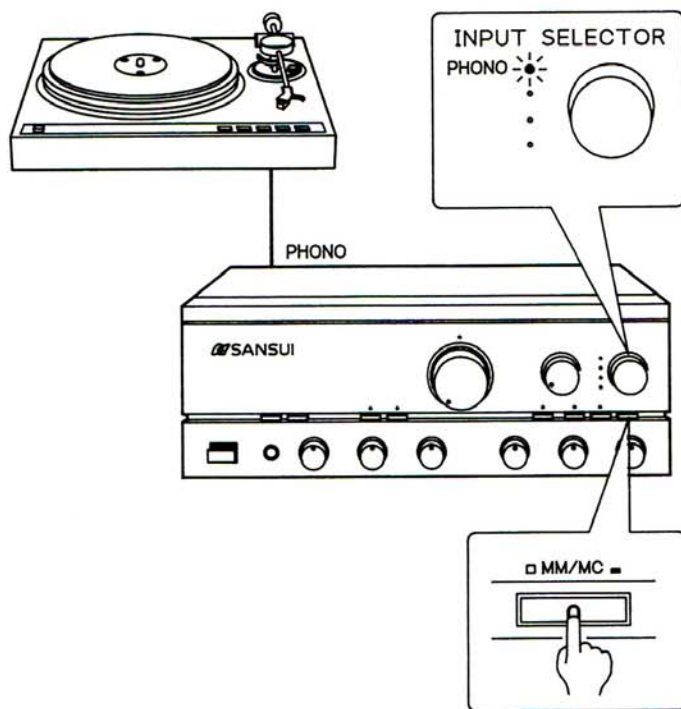
## 放送の受信

1. インプットセクターを“TUNER”にセットします。
2. チューナーを操作し、放送を受信します。
3. 音量や音質などを調整して放送をお楽しみください。



## レコードの再生

1. インプットセクターを“PHONO”にセットします。
2. 使用するカートリッジに合わせてMM/MCスイッチをセットします。  
MM：MM型などの高出力カートリッジを使用する場合、  
MC：MC型などの低出力カートリッジを使用する場合。
3. レコードプレーヤーを操作し、レコードを再生します。
4. 音量や音質などを調整して演奏をお楽しみください。

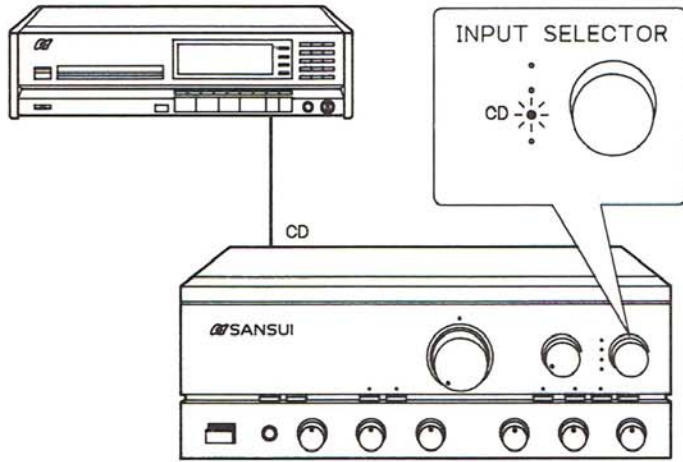


## 良好なレコード再生のために

- \* ソリのあるレコード盤を演奏すると、超低域雑音が発生して低音用のスピーカーを不要振動させ、音質に悪影響を与えます。このときは、サブソニックスイッチを押すと、超低域雑音を除去できます。
- \* 「ブーン」とハム音が入る場合は、ピンプラグの接続が不完全な場合やアース線がはずれている場合があります。また、カートリッジによってはアース線を接続しないほうがハム音が減る場合があります。

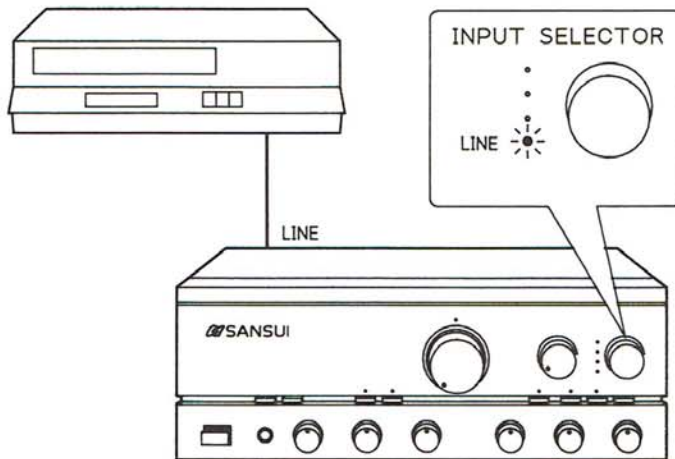
## コンパクトディスクの再生

1. インプットセレクターを“CD”にセットします。
2. コンパクトディスクプレーヤーを操作し、コンパクトディスクを再生します。
3. 音量や音質などを調整して演奏をお楽しみください。



## LINE端子に接続した装置の再生

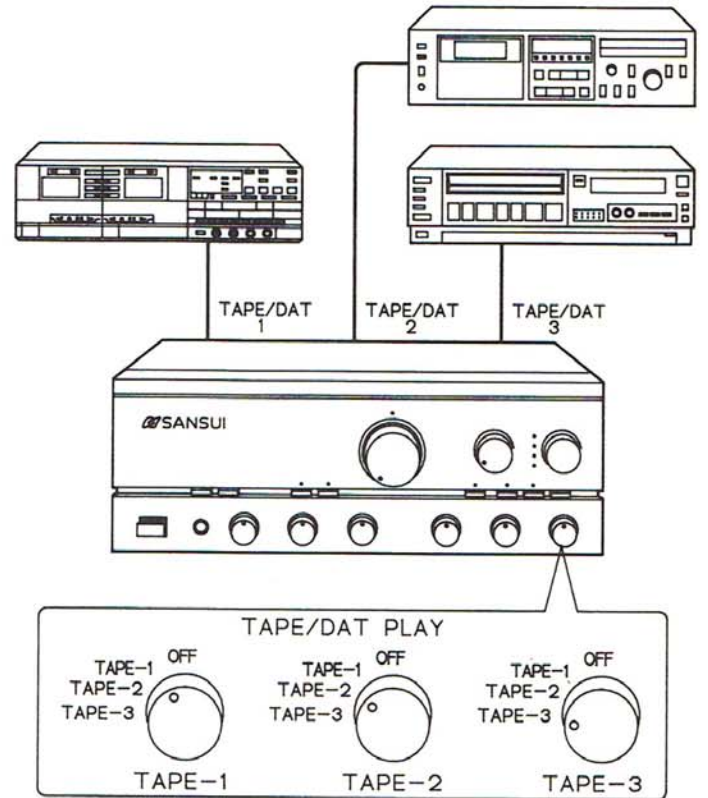
1. インプットセレクターを“LINE”にセットします。
2. 接続されている装置を操作し、動作状態にします。
3. 音量や音質を調整して再生をお楽しみください。



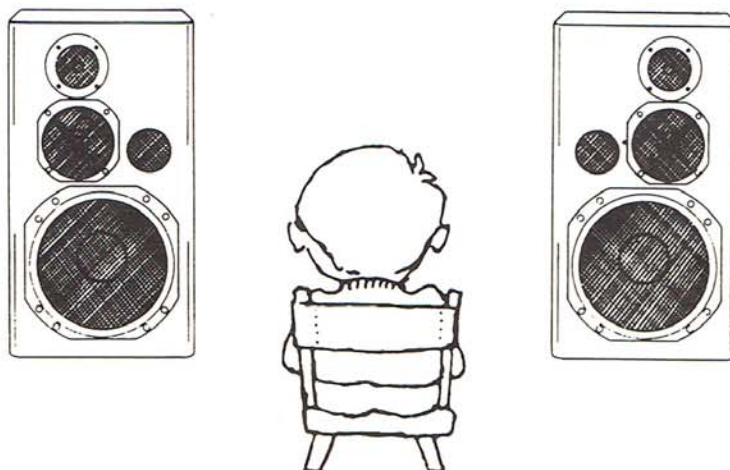
## テープの再生

TAPE/DATの再生(PLAY)端子に接続したテープデッキ、DATまたはビデオデッキの音声を再生するときは、次の操作をします。

1. パワーアンプ・ダイレクトスイッチを“INTEGRATED”にセットします。
2. 使用するテープデッキなどの装置を接続した端子に応じてTAPE/DAT PLAYスイッチをTAPE-1, TAPE-2, TAPE-3の位置へセットします。
3. テープデッキなどの装置を操作して再生状態にします。
4. 音量や音質などを調整して演奏をお楽しみください。



\*テープ再生が終了し、インプットセレクターで選択した装置を再生するときは、TAPE/DAT PLAYスイッチを“OFF”の位置に戻しておいてください。



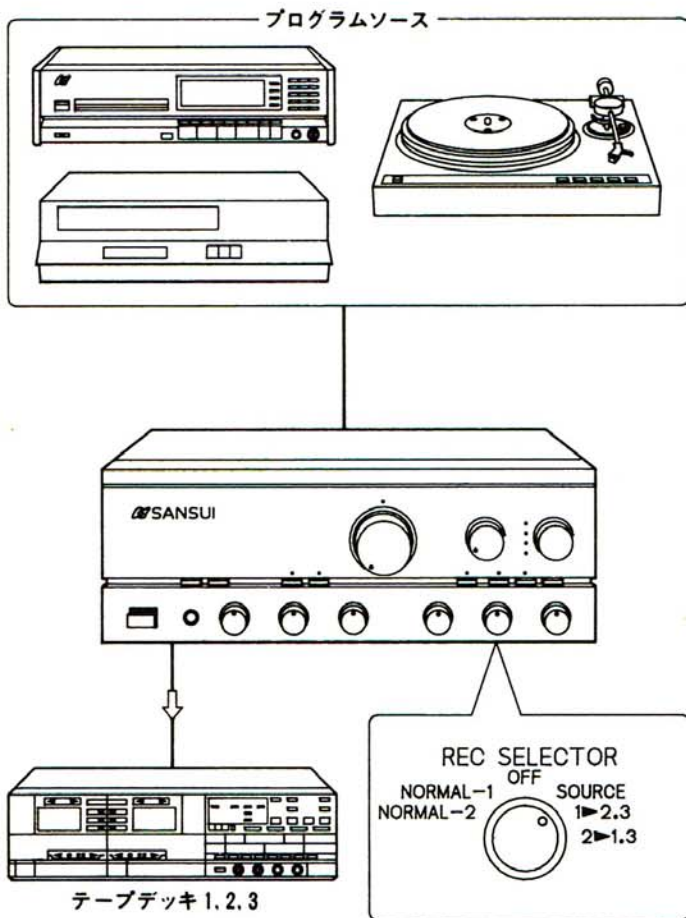


## テープの録音

レコード、CD、放送または、DIRECT(NORMAL-1, -2)端子に接続した装置のプログラムソースをTAPE/DATの録音(REC)端子に接続したテープデッキに録音することができます。

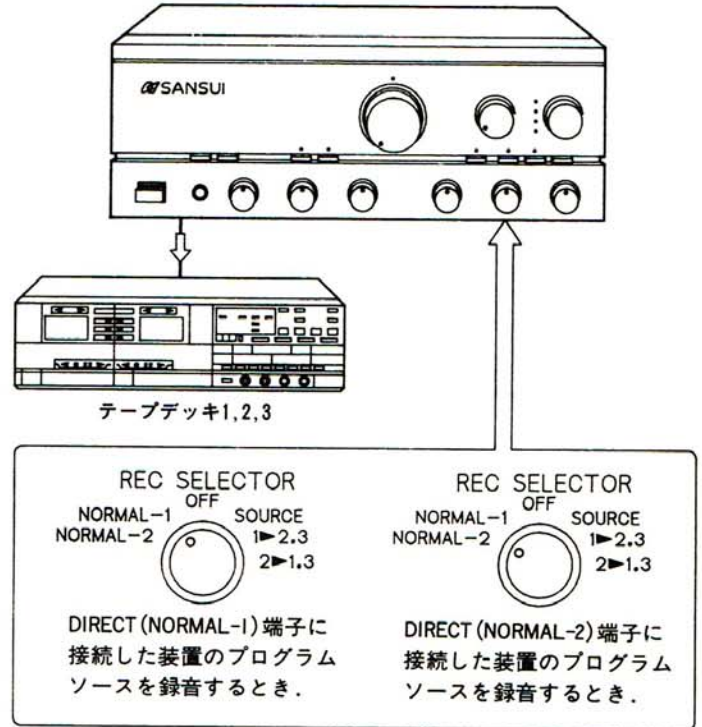
レコード、CDまたはLINE端子に接続した装置のプログラムソースを録音するとき。

1. 録音セクターを“SOURCE”の位置にします。
2. 録音するプログラムソース(レコードやCD、LINEなど)に応じてインプットセクタースイッチを切り換えます。
3. プログラムソースの演奏をはじめます。
4. テープデッキを操作して録音レベルを調整し、録音を開始します。



DIRECT(NORMAL-1, -2)端子に接続した装置のプログラムソースを録音するとき。

1. 録音するプログラムソースに応じて録音セクターをNORMAL-1またはNORMAL-2にセットします。
2. プログラムソースの演奏をはじめます。
3. テープデッキを操作して録音レベルを調整し、録音を開始します。



\*ボリューム、バランス、トーンなどのコントロールを操作しても録音する信号の録音レベルや音質は調整できません。また、プロセッサー(RETURN)端子から入力された信号を録音することはできません。

\*“SOURCE”以外にセットしたときは、録音中のプログラムソースとは別のプログラムソースをインプットセクタースイッチで選択して聞くことができます。

### トーンコントロールについて

トーンコントロールは、スピーカーシステムやカートリッジの特性、お部屋の状態による音の吸収、反射により変化した音質を補正したり、好みの音質にするときに操作します。トーンスイッチを押して上部のインジケーターを点灯させバスとトレブルのつまみを回して音質調整をします。ベースなどの低音は、バスコントロールを中央より右に回すと強まり、左に回すと弱まります。シンバルなどの高音は、トレブルコントロールを中央より右に回すと強まり、左に回すと弱まります。

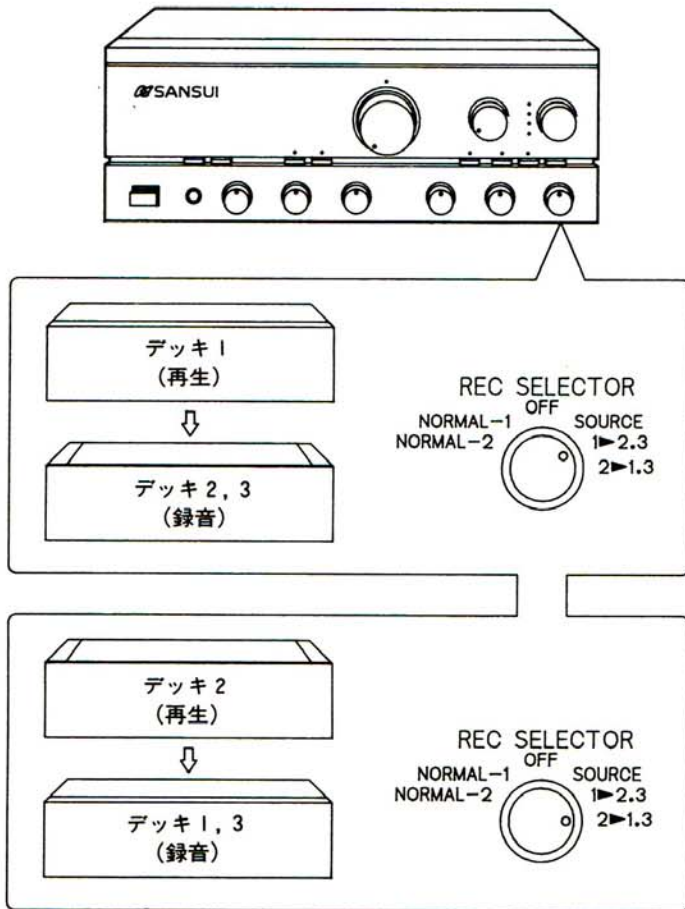
### ステレオバランスについて

ステレオバランスは左右のスピーカーの置き方や能率の違い、家具の配置などによって影響を受けます。左右のスピーカーの音量が異なり、再生音が片寄って聞こえる場合はバランスコントロールでステレオバランス調整をしてください。バランスをとるには、ふだん聞いている位の音量でモノラルのプログラムソース(AM放送やモノラルレコード)を演奏し、バランスコントロールを回して音声は左右のスピーカーの中央から聞こえるように調整します。

## テープからテープへのコピー

2台のテープデッキをご使用になれば、録音済みのテープから別のテープに録音しなおすテープコピーが行えます。

- 録音セレクタースイッチを“1▶2・3”または“2▶1・3”の位置にします。
  - テープデッキの1から2・3にコピーする場合は“1▶2・3”の位置に、テープデッキの2から1・3にコピーする場合は“2▶1・3”の位置にしてください。
- 再生用と録音用のテープデッキ2台を操作し、録音を開始します。



- \* テープデッキを3台使用し、テープデッキの1から2と3にまたテープデッキの2から1と3に同時録音することもできます。
- \* 機能上テープデッキの3から1または2にテープコピーをすることはできません。
- \* テープコピー中に他のプログラムソースをスピーカーで聞くことができます。その場合はインプットセレクターまたは、パワーアンプ・ダイレクトスイッチでお聞きになるプログラムソースを選択してください。
- \* テープコピー中のプログラムソースはTAPE-1/DAT, TAPE-2またはTAPE-3のうち再生側のデッキに対応するスイッチを押して聞くことができます。  
録音側のテープデッキにモニター機能(録音と再生のヘッドが独立した3ヘッドのデッキ)がある場合は、録音側のデッキに対応するスイッチを押して録音モニターができます。

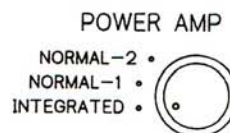
## パワーアンプ・ダイレクトスイッチについて

POWER AMP DIRECT 端子に接続した装置(コンパクトディスクプレーヤー、チューナーなど)を使用するときは、次の操作をします。

- パワーアンプ・ダイレクトスイッチを、接続した装置に合わせてNORMAL-1またはNORMAL-2に切り換えます。
- 使用する装置を操作して再生を始めます。
- パワーアンプ・ダイレクトインジケーターとボリュームコントロールの外周に表示された目盛を合わせて音量を調整します。



- \* パワーアンプ・ダイレクトスイッチの切り換えをするときは、ボリュームコントロールを左に回しきって“∞”の位置にしてから行ってください。
- \* スイッチが“INTEGRATED”以外の位置にセットされているときはバランスコントロールやトーンコントロール、またラウドネス、ミュート、サブソニックの各スイッチは働きません。
- \* 通常は“INTEGRATED”の位置にしておいてください。



スイッチを“NORMAL-1”や“NORMAL-2”から“INTEGRATED”に切り換えると、回路の違いによるレベル差によりボリュームの位置が同じでも音量が異なりますのでご注意ください。

## プロテクター(保護)回路

POWER AMP DIRECT 端子に接続した装置から直流(DC)成分が漏れている場合、スピーカー保護のためにプロテクター回路が働いて(PROTECTOR インジケーターが点滅)音が出なくなります。この場合、その装置はご使用になれませんのでご注意ください。

あなたが放送やレコード、テープ、またはビデオディスクや市販のソフトテープから録音したものは個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

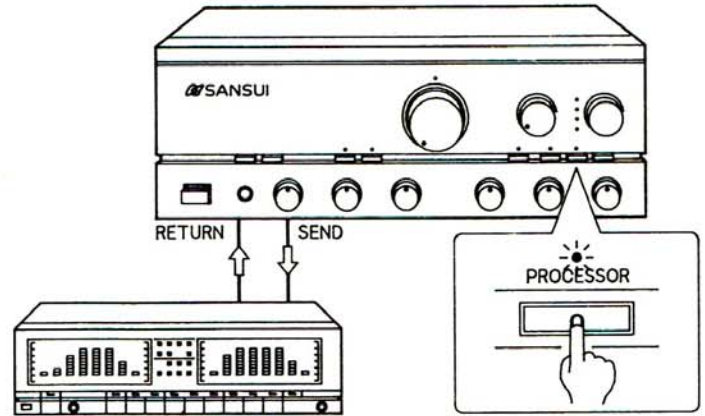


## プロセッサスイッチについて

PROCESSOR 端子に接続した装置(グラフィックイコライザー、サラウンドプロセッサなど)を使用するときは、次の操作をします。

1. プロセッサスイッチを押してインジケータが点灯した状態にします。
2. 本機でプログラムソースを再生し、PROCESSOR 端子に接続した装置を操作します。

\* PROCESSOR端子に何も接続されていない場合や装置を使用しないときは、必ずインジケータ消灯にセットしておいてください。



## トラブルと修理依頼

### サービスの依頼をする前に

アンプの故障と思われる症状の中には、使い方や他の装置が原因の場合があります。

サービスの依頼をする前に、もう1度この取扱説明書をよくお読みになり、接続と操作を確かめてください。

#### 音が出ない

- 電源コードが抜けていませんか。  
プレーヤー、チューナー、テープデッキなどしらべる。
- スピーカーコードがはずれていませんか。  
アンプ側、スピーカー側の両方をしらべる。
- ピンプラグコードがはずれていませんか。  
プレーヤー、チューナー、テープデッキなどしらべる。
- プロテクターインジケータが消えていますか。
- プロテクターインジケータが点滅している。  
スピーカーコードの(+)と(-)が接触していませんか。
- ボリュームコントロールが音量最小の位置になっていませんか。
- インプットセレクターは正しくセットされていますか。
- スピーカースイッチが“OFF”になっていませんか。
- パワーアンプ・ダイレクトスイッチは正しい位置になっていますか。
- プロセッサスイッチは正しくセットされていますか。

#### 片側から音が出ない

- 接続コードの片側がはずれていませんか。
- バランスコントロールが“LEFT”か“RIGHT”の位置になっていませんか。

#### 再生音が不自然で音像が定位しない

- スピーカーの極性(+, -)を間違えて接続していませんか。

#### 音質調整ができない

- トーンインジケータが消えていますか。

#### 雑音が多い

- ピンプラグコードやスピーカーコードが抜けかけていませんか。

#### 録音ができない

- 録音セレクターは正しくセットされていますか。

### サービスの依頼

確認(対策)しても正常に戻らず、アンプの故障と考えられる場合は電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げになった販売店または最寄りの当社サービス窓口(別添サービスネットワーク参照)に次の事項をご連絡ください。

(購入して1年以内の場合は、保証書を提示してください。)

- お名前、住所、連絡先電話番号
- 型名……ステレオプリメインアンプ: AU- $\alpha$ 607DR
- 故障の内容……できるだけ詳しくお知らせください。
- お買い上げ年月日……○年○月○日
- ご自宅までの道順と目標/ご希望訪問日時

# 仕様

## 〔パワーアンプ部〕

帯域実効出力(10Hz~20kHz, 両チャンネル同時動作)

8Ω.....90W+90W

6Ω.....105W+105W

全高調波歪率(10Hz~20kHz)

8Ω(実効出力時).....0.003%以下

6Ω(1/2実効出力時).....0.005%以下

混変調歪率(60Hz:7,000Hz=4:1, SMPTE法)

8Ω(実効出力時).....0.003%以下

ダンピングファクター(1kHz)

8Ω.....150

エンベロープひずみ.....測定限界値以下

TIMひずみ(Sawtooth法).....測定限界値以下

スルーレイト.....180V/μsec(8Ω)

ライズタイム.....0.6μsec

周波数特性(1W).....DC~300kHz $\pm$  $\frac{0}{3}$ dB

負荷インピーダンス

A, B.....4~16Ω

A+B.....8~16Ω

入力感度/入力インピーダンス(1,000Hz)

POWER AMP DIRECT(NORMAL-1,-2).....1V/5kΩ

SN比(Aネットワーク, ショートサーキット).....120dB以上

## 〔プリアンプ部〕

入力感度/入力インピーダンス(1,000Hz)

PHONO(MC).....300μV/100Ω

PHONO(MM).....2.5mV/47kΩ

TUNER, CD, LINE.....150mV/20kΩ

TAPE/DAT PLAY1, 2, 3.....150mV/20kΩ

PROCESSOR RETURN.....150mV/20kΩ

最大許容入力(1,000Hz)

PHONO(MC, 全高調波歪率:0.1%).....21mV

PHONO(MM, 全高調波歪率:0.01%).....210mV

出力電圧/出力インピーダンス(1,000Hz)

TAPE/DAT REC-1, 2, 3.....150mV/600Ω以下

周波数特性(1W)

PHONO(MM)

(RIAA偏差).....20Hz~20kHz $\pm$ 0.2dB(REC OUT)

TUNER, CD, LINE.....DC~200kHz $\pm$  $\frac{0}{3}$ dB

TAPE/DAT PLAY-1, 2, 3.....DC~200kHz $\pm$  $\frac{0}{3}$ dB

SN比(Aネットワーク, ショートサーキット)

PHONO(MC).....70dB以上

PHONO(MM).....88dB以上

TUNER, CD, LINE.....110dB以上

TAPE/DAT PLAY-1, 2, 3.....110dB以上

チャンネルセパレーション(1,000Hz)

PHONO(MC).....50dB以上

PHONO(MM).....65dB以上

TUNER, CD, LINE.....85dB以上

TAPE/DAT PLAY-1, 2, 3.....85dB以上

トーンコントロール

BASS最大変化量.....+6dB, -6dB(50Hz)

TREBLE最大変化量.....+6dB, -6dB(15kHz)

サブソニックフィルター.....16Hz(-3dB)6dB/oct.

ラウドネス(音量:-30dB時)

.....+6dB(50Hz)/+4dB(10kHz)

オーディオミュートング.....-20dB

## 〔その他〕

電源電圧.....100V

電源周波数.....50Hz/60Hz

定格消費電力(電気用品取締法).....250W

寸法.....幅430mm×高さ159mm×奥行446mm

重量.....18.0kg(本体のみ)

※改良のため、予告なく意匠、仕様の一部を変更することがあります。